

J A 栃木青年部連盟
ポリシーブック 2015
(案)



～若手農業者の行動指針と政策提言～

平成28年3月

JA栃木青年部連盟 ポリシーブック2015

目次

I. 県版ポリシーブックの位置づけ

II. 課題の概要と取組事項

1. 新規就農者および後継者不足について

2. 生産資材価格の高騰について

3. 農業への理解促進について

4. 盟友同士の連携強化について

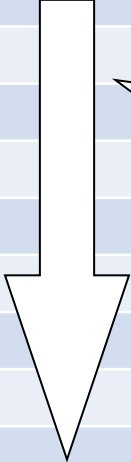

I. 県版ポリシーブックの位置づけ

本県においては、平成23年度より「ポリシーブック」の作成を行っております。ポリシーブックを一言で表すと「JA青年部の政策・方針集」となりますが、その作成にあたっては、JA青年部の盟友一人ひとりが営農や地域活動をしていくうえで抱えている課題や疑問点について、盟友同士で解決策を検討してとりまとめている手法をとっています。

県版のポリシーブックは、県内のJA青（壮）年部が作成した単組版ポリシーブックの内容を集約し、とりまとめたものとなります。

今回、ポリシーブックでとりまとめた課題とその取組概要については、本連盟の次年度事業に反映させるとともに、各JA青（壮）年部の次年度版ポリシーブック改定の際の参考として活用していくこととする。

作成スケジュール

月	県版	単組版	
6	26年版の実績評価 27年版の作成	26年版の実績評価 27年版の作成	
7			
8			委員会等を活用して、 内容を検討する。
9			27年版の提出
10			
11			
12			
1			
2			
3	27年版策定		

◎県連盟の28年度事業に反映させる。
◎各JA青（壮）年部組織の次年度版の作成に活用する。

II. 課題の概要と取組事項

1. 新規就農者および後継者不足について

(1) ねらい

職業として魅力的な農業を確立することで新規就農者および後継者の不足を解消し、青年組織や地域農業を活性化させる。

(2) 現状と考え方

高齢化、若手農業者の不足が続いており、将来を見通せる農業経営が難しくなっている。後継者が少ないということは、近い将来、産地としての力が弱くなり、魅力の少ない産地となってしまう。

また、インターネットやソーシャルメディアが急速に発展する中、それらのツールを利用するのが得意か不得意かにより、情報の収集・発信に大きな差が出ている。農業の魅力を発信しイメージアップを図るにはこれらを活用する能力が求められている。

(3) 個人・青年部として行うこと

- ・ SNS等の情報ツールを活用し、盟友同士、他業種の人と情報交換をすることで、情報の蓄積・共有化を図る。また、盟友によるこれらのツールの利用を促進するため、学習会などで講座を開き、社会環境の変化に対応できるようにする。
- ・ 農業経験のない、あるいは少ない新規就農者に対し、栽培技術、経営のコツを教える等の支援を青年部として行っていく。
- ・ 農業体験の場を設け、農業へ理解を図るとともに出会いの場をつくる。

(4) JAに要請すること

- ・ 農業経営に関する情報の迅速な提供。
- ・ 共同でイベントの企画・開催

(5) 行政に要請すること

- ・ 中長期的な補償制度を主眼とした、安定的な農業経営を確立できる施策を要請する。
- ・ 農業のPR
- ・ 農業に理解を求める教育プログラムの提案。
- ・ 6次化による加工品販売を行い、産地としての魅力をアピールしてほしい。

後継者不足

解決策

上手な活用

- ・ SNSの利用
- ・ 情報の収集・発信
- ・ PRする手段

農業をPRする場



- ・ 出会いの場

要請事項

JAへの要請

- ・ イベントの共同企画
- ・ 情報の迅速な提供

行政への要請

- ・ 農業に理解を求める教育プログラム
- ・ 6次化の推進

2. 生産資材価格の高騰について

(1) ねらい

自らの営農と生活を守るため、収益率の高い農業経営を目指す。

(2) 現状と考え方

各種生産資材価格の高騰が農業経営を圧迫している。また、こうした状況が続いているために経営を見直すことも難しく、コスト削減を見逃してしまっている恐れがある。

生産資材をJAで購入するよりも、ホームセンターなどで買った方が安い場合も多く、JAで購入するメリットが感じられなくなっている。

(3) 個人・青年部として行うこと

- ・農薬の使用回数を減らすなどしてコストを削減する。
- ・税務やマーケティング等、経営力に関する講習会を実施し、経営力の向上を図る。
- ・青年部盟友同士のつながりを十分に利用し、農業技術、低コスト資材等の情報交換を行う。

(4) JAに要請すること

- ・生産資材の価格が他のホームセンター等と比較してその差が無くなるように、生産資材のコスト低減を求める。
- ・大口農家への資材価格割引。

(5) 行政に要請すること

- ・高価な農作業機のリースなど、農業者への補助。
- ・国・県による金銭負担軽減（田畑の無償、もしくは安価での提供など）
- ・農業経営に係わるコスト削減に向けた政策・取組の実現を国、行政に要請する。
- ・資材高騰分を補填できるような助成措置または減税措置の創設を要請する。
- ・新規就農者に対する支援の充実はもとより、機械更新や設備投資等中堅若手農業者に対する支援の充実を要請する。

資材価格高騰

解決策

経営の見直し

- ・ 低コスト農業の実践

経営力の向上

- ・ 講習会等による経営力の向上

要請事項

JAへの要請

- ・ 資材コスト低減
- ・ 大口農家への資材価格割引

行政への要請



- ・ リース等による補助
- ・ 新規・若手農業者への支援強化

3. 農業への理解促進について

(1) ねらい

多くの人に豊かな自然の大切さや農業のすばらしさを理解してもらい「農」が重要であることを認識してもらう。

(2) 現状と考え方

農業をめぐる情勢はT P P等をはじめとする要因により、イメージが低下してしまっている。特に子供たちに「農」の重要性を伝えなくてはならないが農業体験等の「農」を理解してもらえる場が失われている。また、農業体験は大人からも注目を浴びているのでそうした機会を活かし、農業への理解促進を図る。

(3) 個人・青年部として行うこと

- ・学校、J Aとの連携で、バケツ稲の実施や盟友の圃場を無償提供し、農作業体験の場を設ける。
- ・J Aまつり等で、最新農業機械の展示や試乗、撮影会を行う。
- ・地元内外のグリーンツーリズムや農業体験の受入の基盤づくりの強化。
- ・どのような農業体験をしたいか、ニーズ調査の実施。
- ・農業体験プログラム等の研修会の開催。
- ・若い感性を持つ青年部ならではのイベント・交流会を考案し、消費者との交流を深め、農業への理解を高める活動を行う。

(4) J Aとして行うこと

- ・農業関連誌（日本農業新聞、ちゃぐりん等）の学校への無償提供を行い、教材や農業の学習に利用してもらう。
- ・農業体験の場を作り、生産したものを調理するまで行う。
- ・広報誌およびJ AのHPを活用した食農教育の発信。
- ・遊休施設の貸出。

(5) 行政に要請すること

- ・道の駅等の直売所などに協力していただき、農家のアピールの場を増やす。
- ・学校で行う、農業の学習時間の増加。
- ・農業体験用の圃場を学校毎に設ける。
- ・学校や教育委員会への働きかけ。

農業への理解促進

解決策

農業体験の場

- ・ 受入体制の強化
- ・ 農業体験プログラム等の研修会の開催

「農」を知る場

- ・ J Aまつり
- ・ 学校との連携
- ・ 消費者との交流



要請事項

J Aへの要請

- ・ 広報誌やHPによる情報発信
- ・ 日本農業新聞、ちゃぐりん等の学校への無償提供。

行政への要請

- ・ 道の駅等の協力
- ・ 学校や教育委員会との協力

4. 盟友同士の連携強化について

(1) ねらい

青年部という組織は、基本的に盟友同士のつながりを広め、農業経営や技術を気軽に相談し合える仲間作りの場であると考ええる。その組織を最大限利用できるような組織作りを行う。

(2) 現状と考え方

盟友数が増加した単位組織もあるが盟友数が増加しても青年部活動に魅力的な部分がなければ盟友数はすぐに減少し衰退してしまう恐れがある。

また、各地で異常気象による災害が多発している現在、農業施設及び農産物にも被害が拡大しており、こうした状況に対応するには盟友同士の助け合いを強化する必要がある。

農業を取り巻く環境は厳しいが日本の豊かな自然と国民の生活を守るためには、必要不可欠な産業である。この大切な産業を守るために、何より生産者である盟友を守らなくてはならない。

そのために豊かな農業の発展を目指し、青年部としての組織力の強化を図る。

(3) 個人・青年部として行うこと

- ・盟友同士で定期的に交流・情報交換、連合会との勉強会の開催等 J A 青年部のメリットを増やしていく。
- ・お互いに農業の問題等を共有し、盟友同士の関係強化のため、気軽にコミュニケーションをとれる交流の場を作っていく。
- ・後継者問題を重要案件として認識し、青年部盟友が婚活イベントに積極的に参加するよう、事務局・青年部役員が働きかける。
- ・盟友同士の農家視察研修会の開催。
- ・盟友災害時ネットワークの構築。
- ・多種多様な栽培講習会の開催。
- ・同じ志を持つ盟友と連帯し、生産技術や販売動向を研究し、情報交換を行い、販路を開拓する。
- ・青年部盟友同士を知るためのプロフィールづくり。

(4) J A として行うこと

- ・ J A でも組合員数が減少していて、青年部盟友減少につながる。 J A において組合員増加に努めてもらうよう要請する。
- ・青年部活動を積極的に新聞、 J A 広報誌等への掲載。
- ・後継者問題については、 J A だけでなく市町やそれ以外の団体とも連携し、情報の共有を行い、多くの出会いの場を広げる。

(5) 行政に要請すること

- ・各業界の青年部の意見交換会の開催。
- ・ J A 管内の全市町と J A が一体となった婚活の開催。
- ・盟友が参加しやすいイベント等の開催。
- ・災害時のマニュアル等の整備。
- ・災害時対応研修会の開催。
- ・災害時の状況を的確に把握し、一早い情報提供を行ってほしい。

盟友の連携強化

解決策

交流の場

- ・各種勉強会、研修会の開催

連携を発揮する場

- ・情報交換による販路拡大
- ・非常時におけるネットワークの構築

要請事項

JAへの要請

- ・組合員増加
- ・青年部活動の広報

行政への要請

- ・各業界の青年部との交流
- ・盟友が参加しやすいイベントの開催
- ・災害時の的確な対応